

《本年度の目標達成状況》	《評定》	《感想や意見》
《基礎学力》 ・今年度の目標を「端末等を活用した学習の充実を図るとともに、基礎基本を大切にしながら、学力向上に努める」と設定し、ICT端末を使用し、友達と関わりながら学習に取り組むことを意識して学習する態度の育成に努めた。朝学習や自主学習で、自分に必要な学習を考えて取り組む学習形態を取り入れ、苦手な内容やもっと深めたいことへの追及意欲を向上させることができることを目指した。さらに読書活動の推進によって、進んで本を読む児童を育てることを目標にした。 ・「苦手な内容やもっと深めたいことを自主学習や朝学習で取り組んだ」という児童のアンケート結果は63%、週3日以上、読書をしている児童のアンケート結果は71%であった。また保護者アンケート「週3日以上は家庭で読書をしている」は39%と前期に比べると減少しており、依然として低い値となった。以上から評価はBとした。	《基礎学力》 B	・ICTを1日1回は使い、基礎基本を大切にしながら、児童の学力が向上するように工夫した。また、自主学習のスタンプラリーの取り組みを継続して行い、教員間での児童のノートの共有をすることができた。互いのノートの掲示や称揚を励みに児童は自分も頑張りたいという気持ちになっている。取り組ませ方の工夫は自主学習の内容をレベルアップさせるためにもこれからも継続して行う必要がある。 ・わくわくサポート学習は、個別の丸つけとアドバイスがすぐに受け取れることが励みになり、基礎学力の定着につながっている。「主体的に取り組む」児童を目指し、学習への意欲が高まる工夫をしていってほしい。 ・読書週間には、図書委員会の活動でいろいろな取組をし、様々な種類の本にふれる機会を設けている。知識を増やし、心を豊かにするために、今後も読書週間の取組を継続して進めていく。家庭でも読書の習慣をつけていってほしい。
《健康・体力》 ・生活習慣の見直しや給食指導を通して、健康に対する意識の向上に努めるようにした。アンケートでは95%の児童が給食はがんばって食べるようにしていると回答している。しかし実情として残菜量が減っていないことは気になる。給食センター栄養児童員の方とも連携し、定期的に児童の様子観察や食育指導も行っていただいている。神在小学校独自で呼びかけている「べろりんデー」を継続的に実施し、心と体の健康のもとになる食育を進めていきたい。 ・メディアについての家で決めたルールを守っていると回答した児童は67%となり、中間期に比べて低下した。引き続き、学級懇談会や学校保健委員会の場を生かして、家庭への啓発を根気強く続けていきたい。以上から評価はCとした。	《健康・体力》 B	・苦手な食べ物にも挑戦しようという気持ちを大切にしたいので、「べろりんデー」の取組を今後も続けていきたい。しっかり食べることは生活リズムの基本であるので食育を推進して健やかな子どもたちの成長を今後も願う。児童の励みになっている保健委員会の取組や給食センターとの連携は今後も続けていってほしい。 ・就寝時刻が守られ、生活習慣が整っていることは健康体力両面の増進につながるので、今後も家庭と協力して取り組んでいってほしい。 ・メディアのルールや使用時間の約束がなかなか守れていない児童がいる現状から、家庭でのルール作りの徹底やメディアコントロール週間の取組の継続を学校と家庭と地域の様々な方向から協力し、取り組んでいけるとよい。
《人権感覚の育成》 ・6月のいじめを考える週間や12月の人権週間に合わせて、友達との関わり方や思いやりのある言葉遣いについて学習し、児童一人ひとりの人権意識を高められるような取組を行った。また、人権週間にはリモート人権集会を開き、学年の取組を紹介し合って、友達も自分も大切に人権意識を高めることができた。 ・今年度も全学級SEL(Social Emotional Learning)学習(子ども達の対人能力や共感性、自己理解や感情制御力を育てるための学習や体験プログラム)に取り組み、自尊感情と好ましい対人関係能力を育てている。「授業中、困ったときに、自分の気持ちを受け止め、言葉で伝えている児童は80%、授業中、友達の気持ちを理解し、友達の立場に立って行動している児童は81%であった。相手を思いやる気持ちは育ってきているので、人権感覚を養う取組をさらに継続させていきたい。以上から評価はBとした。	《人権感覚の育成》 A	・学校では、道徳の授業・いじめを考える週間・人権週間など、心優しい子になるような取組を行っている。SEL学習に取り組み、自分や友達の気持ちを受け止め、進んで自分の思いを表現できるような授業をしている。また、縦割り班活動などで異学年の児童とのふれあいが多く、校内の児童同士の仲が深まっている。ピアサポート活動でもSELの学習で学んだスキルを使って、相手の気持ちを考えながら異学年間で活動することができた。今後も継続していきたい。 ・家庭や地域でも好ましい人間関係を育てるものとなるあいさつや言葉遣いの大切さを話す機会があるので、地域全体で取り組んでいきたい。
《家庭・地域の連携》 ・本年度もたくさんの方々に学校支援として参加していただくことができた。学校運営協議会を設立し、児童・保護者・地域・学校運営協議会委員・教職員が神在小の未来について意見を出し合い、目標(令和6年度は運動会種目の工夫)をつつ作成し、実行することができた。「チーム神在みんなで話そうタイム!」の内容を「知っている」と回答したのは保護者が61%、地域が73%であった。 ・学校運営協議会に対しての周知は進んできているといえるが、今後もホームページや行事などのあらゆる機会を通して発信を続けていく必要がある。拡大熟議を行うことができたのは効果的だったので、今後は参加のあり方を工夫していきたい。以上から評価はBとした。	《家庭・地域の連携》 A	・学校運営協議会が発足し、6月には拡大熟議「チーム神在みんなで話そうタイム」をもつことができた。児童・保護者・地域の方・学校がそれぞれに意見を出し合い、有意義な時間となった。今年度の目標「運動会種目の工夫」に向けて6年生が中心となり、借物競争を運営することができた。令和7年度も同様に進めていきたい。 ・学校の様子や学校運営協議会についてしっかりと情報発信を行い、今後につなげていきたい。近年の課題であるボランティアの高齢化に伴う世代交代が望まれている。次世代へ引き継ぐ新しい力がこれからいっそう必要になり、地域の人材育成も行っていく必要がある。